

# 酪農經營の一つ方法について

北見地方酪農青年研究連盟 菅原哲美

この研究発表は第六回北海道酪農研究発表大会（一九五四・一二・一於札幌市）に於いて、首席に入選の菅原哲美君の貴重な体験内容であります。ともすると牛乳の搾取業を以て直ちに酪農と考え勝ちな中にあつて、正しい酪農のあり方に着目せられ經營を合理化された点は、乳価の低調に悩む酪農家への指針になると存じ、ここに掲載する次第です。（編集部）

北方農業において酪農の重要性はいうまでもないのですが、養豚についてははとかく乳牛と切離した考えをもつ人が多く、その原因は旧来の不合理な飼育方法を行なうために生産コストが高くなるのであって、私は乳牛の副産物である脱脂乳の利用と、牧草の給与とにより生産コストを引き下げ、安定の取れた飼育の実現に着目して豚四頭の飼育を行ないましたので、その方法について申上げましよう。

## 一 草を中心とした飼育

牧草地に放牧することにより特定の期間は最も廉価に豊富な栄養を与えられ管理費を最低にすることができる。また屋外での自由な運動により新鮮な空氣と太陽光線が当るので豚に不足がちなビタミンが与えられ諸器官が発達し、新陳代謝が促進せられ、とく

に幼時の放牧は骨格並びに消化器管がよく発達し、肥育する場合に飼料摂取量が増し体重の增加が極めて良好である。

私は電気牧柵を用い（支柱直径五～六厘、長さ一五〇厘、支柱間隔八米、鉄線は十二番線を地上二〇厘、五〇厘、一二〇厘の三本を張る）一反歩の放牧場を設け、その中に避難小屋（休息所）、飲水場、水浴場を作りましたが、電牧に二、三度触れると以後寄りつかなくなります。

牧草は白クロバーア割、ラデノクロバーハ割、その他五割となっていますが、漸次よい放牧地になると思われます。

豚は飽食すると放牧場の表土を起すので私は鼻環を通してお脱脂乳による飼育では一日十分程度の労力で間に合います。

放牧による飼育では一日平均労力十五分、一カ月わずか八時間、なお脱脂乳による飼育では一日十分程度の労力で間に合います。

放牧の結果は普通舎飼のものに比し、胸悶は大差がないが休長の発育がとくに目立つて優れたことが確認できた。

## 二 自給飼料の栽培

養豚のための飼料としてポンキンと、玉蜀黍を作付したが次のようにわざかな生産費で豊富な飼料が収穫された。

三 冬季飼料の生産給与

飼料を煮て与えると燃料費と労働費がかさむのみならず、栄養価が減少するので十月中旬、高さ二尺五寸、幅五尺、長さ二十尺のトレッササイロに下三寸位糞を敷きボンキン六五〇匁に約一反歩のビートトッブを切り込み、土を被せてサイレージを作りましたが、電牧に二、三度触れると以後

月中旬、高さ二尺五寸、幅五尺、長さ二十尺のトレッササイロに下三寸位糞を敷きボンキン六五〇匁に約一反歩のビートトッブを切り込み、土を被せてサイレージを作りましたが、電牧に二、三度触れると以後

月中旬、高さ二尺五寸、幅五尺、長さ二十尺のトレッササイロに下三寸位糞を敷きボンキン六五〇匁に約一反歩のビートトッブを切り込み、土を被せてサイレージを作りましたが、電牧に二、三度触れると以後

月中旬、高さ二尺五寸、幅五尺、長さ二十尺のトレッササイロに下三寸位糞を敷きボンキン六五〇匁に約一反歩のビートトッブを切り込み、土を被せてサイレージを作りましたが、電牧に二、三度触れると以後

種 別 反 別 収 量 生産費  
ボンキン 一四〇匁 二〇〇匁 一四〇匁 一四〇匁  
玉蜀黍 一五〇匁 一四〇匁 一四〇匁 一四〇匁

第一表 飼料計画表（一日一頭当たり）

五 寄生虫の駆除

交配した仔豚を五月中旬（生後四〇日）購入した。

二カ月毎に与えた糞は紫色を呈した。

四 一代雜種の活力を利用

ヨークシャーの牡にパークシャーの牡を交配した仔豚を五月中旬（生後四〇日）購入した。

うビートトップは三日間天日乾燥を行い、さらに糞二〇〇匁を混じた。

五月中旬（生後四〇日）仔豚購入後直ちに去勢をしたが、その結果は性質温順、発育良好で肉価格も非去勢豚に比し、現在五文高で販売される。

### 七 豚舎と飼槽の改善

一般に豚は不潔だと考えられているが、豚舎の隅に低い寝台を作った結果好んで寝台の上に寝るようになつた。さらに飼槽は太い丸太の中をくり抜いて半月形の長いものをやや高目に固定して用いたが、飼槽に

肢を入れることがないばかりか、飼料をこぼさず無駄を省くとともに極めて清潔になった。

### 八 飼料給与の適正

第一表のような飼料計画を立て実行して来たが標準生育より遙かに良好でとくに肥育に入つてからの成績が良かつた。七月の生育不振は暑氣と蚊等の被害で今後工夫改善したい点あります。本給与計画は五月上旬に立てたのであります、その後

第二表 慣行法と私の飼養法との経費比較表

金 費	代 費	代 費	家 費	費 金	飼 料 費						単 価	慣 行 法	私 の 飼 養 法
					飼 料	ボンキン(生産費)	玉蜀黍(生産費)	米糠	脱脂乳	粕			
一頭				一頭	一俵	一俵	一俵	一合	一升	一貫	一貫	一貫	一貫
二頭				三三〇	八〇〇	八〇〇	八〇〇	二三〇	二三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇
四頭				四頭	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇
六、八〇〇				六、八〇〇	六、八〇〇	六、八〇〇	六、八〇〇	六、八〇〇	六、八〇〇	六、八〇〇	六、八〇〇	六、八〇〇	六、八〇〇
四頭				四頭	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇
六、八〇〇				六、八〇〇	六、八〇〇	六、八〇〇	六、八〇〇	六、八〇〇	六、八〇〇	六、八〇〇	六、八〇〇	六、八〇〇	六、八〇〇

酪農ブームで脱脂乳は一升一二円になり計画には余り利⽤していなが現在八円五〇銭程度であり二升を給与している。これは下落した乳価のカバーを豚を通じて肉にして有利に販売したいという考え方あります。つきに収支計算です。

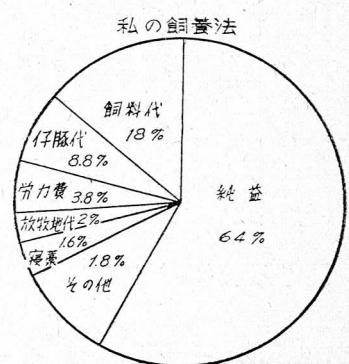
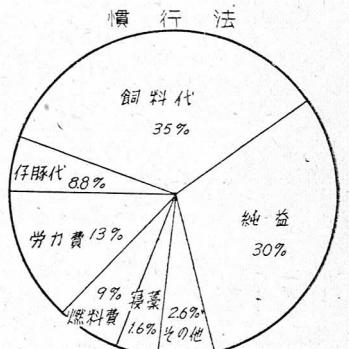
以上によつて労働報酬を見ますと、慣行法による場合は一時間当九五円に対し、私の場合は五二八円と五倍余の高率であり、一〇〇匁当生産費が慣行法で五八円に対し私は慣行法によつても私の飼育した豚と同

相場が比較的高く七〇文であり一頭三〇貫で二一、〇〇〇円、四頭で八四、〇〇〇円、既肥四頭で三、二〇〇貫、一貫五円と見て一六、〇〇〇円、合計一〇〇、〇〇〇円の粗収入となります。支出は飼料代一七、八四〇円(脱脂乳、米糠、玉蜀黍、ビートトップ、ボンキン、麩、労力費一二八時間で三、八四〇円)一時間三〇円、仔豚貢入費八、八〇〇円、その他放牧地代、敷藁費、藁代、消却費、税金等で五、八〇〇円、合計三六、二八〇円となつております。

今旧来の慣行法による場合と私の飼育法による場合とを比較いたしまして第二表のようになります。さらにこれを見易いようにな図表で示すと第一図の通りでございま

程度の発育をなし同額の粗収入が得られるものとしての計算であります。結論として放牧と脱脂乳を主体とし、冬季生食給与による飼養によつても十分に標準以上の発育をすることが立証確認でき次第でございます。

第一図 粗収入を100として経費と純益とを%で図示すると次の通りです。



雪たね同友会員の皆様へ	
会員之証と会員番号について	
会員の皆様にお送りしてあります会員番号は、会費が切れても次の会費を納めていただけばそのまま有効となります。一年毎に会員証を更新いたしますのでご承知下さい。	